

令和7年度事業報告書

第1 清掃

運営体制の充実を図るための取組

運営体制の充実を図るための取組として、策定済みの「個人情報管理規程」「ハラスメントの防止に関する要綱」の内容について、職員への周知徹底を図っている。令和7年度においては、より適切な法人運営を行うため、定款をはじめとする各種規程の整備を行った。

また、清掃ルートとごみの回収地点および回収量を記録、蓄積し、そのデータを分析して日々巡回計画を作成している。これにより、燃料消費を抑え回収効率を向上を図り、限られた資源を有効活用することで、海面清掃の公益的価値を高めている。

I 施設

1 船舶

船名	総トン数	主機関	速力	乗組員数	集積能力	形式	備考
清港丸	19.0t	ディーゼル 345 ^{PS} ×2基	10.0kt	3名	20m ³	ディスフローター式	名古屋港管理組合 から無償借受け
あゆち	14.0t	ディーゼル 130 ^{PS} ×2基	7.0kt	3名	12m ³	ディスフローター式	
きよかわ	4.9t	ディーゼル 112.8 ^{PS} ×1基	8.5kt	3名	3m ³	曳舟兼清掃船	
塵芥運搬船	—	無動力	—	—	30m ³	—	

2 土地および建物

名称	所在地	土地面積	建物面積	備考
事務所及び船舶基地	港区作倉町1番95号	984.95 m ²	175.52 m ²	名古屋港管理組合から無償借受け
作倉作業基地	港区作倉町101番	991.48 m ²	—	〃 (含護岸敷)
中川作業所	中川運河南幹線11号地以南	159.48 m ²	—	〃 (土地)

3 起重機（クレーン）

種別	吊上荷重	設置場所	用途	備考
デリッククレーン	1.0 t	中川作業所	塵芥陸揚げ用	名古屋港管理組合から無償借受け
ジブクレーン	2.8 t	作倉作業基地	〃	〃

II 人員

職名	副会長兼 常務理事	事務局長	事務員	係長	船長	計	備考
人数	1名	1名	2名 (※)	1名	2名	7名	(※) 大型漂流物除去等事業 と兼務

Ⅲ 作業内容（公益目的事業の実施状況）

1 港内清掃

悪天候および土日祝日を除く毎日、清掃船「清港丸」および「あゆち」による名古屋港内の巡回清掃を実施した。特にガーデンふ頭は名古屋港の表玄関として来港者が多いため、春から秋にかけて船溜りを重点的に清掃した。

梅雨時期には断続的に激しい降雨が発生し、河川水位の上昇に伴って大量のごみが河川を通じて海へ流入した。この影響により、6月のごみ回収量は410m³に達した。また、9月5日に台風15号が上陸し、愛知県内の西三河地域では集中豪雨や強風により公共土木施設や道路の被害が発生し、床下浸水などの被害も確認された。この台風の影響により、河川を経由して海へ流れ込むごみの量が平常時よりも増加した。

2 河川清掃

清掃船「きよかわ」により、堀川、新堀川および中川運河の適宜清掃を実施した。中川運河については、毎週金曜日に定期清掃を行った。特に、松重ポンプ所および中川口ポンプ所付近は汚物や塵芥が集積しやすい区域であるため、重点的な清掃を実施した。

また、中川口通船門の閘室を中心に発生した浮遊死魚についても処理を行った。処理実績については、『6ページ 死魚回収実績表』に記載している。

	内 港		南 部		西 部		堀 川		新 堀 川		中 川 運 河		計		備 考	
	回数	塵芥 (m ³)	回数	塵芥 (m ³)	回数	塵芥 (m ³)	回数	塵芥 (m ³)	回数	塵芥 (m ³)	回数	塵芥 (m ³)	回数	塵芥 (m ³)		
令和7年	4	21	120.0	10	17.5	1	1.0	13	7.0	2	1.0	4	4.0	51	150.5	
	5	20	67.0	5	2.5	1	2.0	11	5.5	2	1.0	5	5.0	44	83.0	
	6	22	395.5	2	1.0	2	1.0	12	5.5	2	1.0	5	6.0	45	410.0	死魚 1,900匹
	7	22	195.0	3	2.5	3	10.0	13	8.0	2	1.0	4	10.0	47	226.5	死魚 22,000匹
	8	18	38.0	6	3.5	4	5.5	10	7.0	2	1.0	4	7.5	44	62.5	
	9	19	69.5	6	7.5	4	2.5	12	7.0	2	1.0	3	3.5	46	91.0	
	10	21	62.0	14	33.5	2	1.0	13	7.0	2	1.0	5	5.0	57	109.5	
	11	15	10.0	8	22.0	3	1.5	10	6.0	2	1.0	4	5.5	42	46.0	
	12	19	21.5	10	22.0	1	0.5	13	8.0	2	1.0	3	3.0	48	56.0	
令和8年	1	19	15.5	16	26.0	2	1.0	13	11.5	2	1.0	4	5.0	56	60.0	
	2	16	18.0	16	24.5	1	0.5	12	6.0	2	1.0	4	4.0	51	54.0	
	3	18	26.0	17	18.5	2	3.0	12	6.5	2	1.0	4	4.5	55	59.5	
計		230	1,038.0	113	181.0	26	29.5	144	85.0	24	12.0	49	63.0	586	1,408.5	死魚 23,900匹

3 河川大清掃

令和7年10月21日から10月29日まで河川大清掃を実施した。実績は以下のとおりである。

【表：河川大清掃実績】

	河 川 名	出動人員および船舶			塵 芥	区 間
		清港会	木材業者	船 舶		
7年 10月21日 (火)	堀 川	3人	3人	1隻	0.5m ³	松重橋～尾頭橋
10月22日 (水)	〃	3人	—	1隻	0.5m ³	巾下橋～松重橋
10月23日 (木)	中川運河	3人	—	1隻	1.0m ³	堀 止～中川閘門
10月24日 (金)	堀 川	3人	—	1隻	1.0m ³	尾頭橋～瓶屋橋
10月27日 (月)	〃	3人	—	1隻	0.5m ³	瓶屋橋～大瀬子橋
10月28日 (火)	新堀川	3人	—	1隻	0.5m ³	堀 留～内田橋
10月29日 (水)	堀 川	3人	—	1隻	0.5m ³	大瀬子橋～堀川水門
合 計		21人	3人	7隻	4.5m ³	

4 流出油処理

本会に係る令和7年度の流出油処理件数は0件であった。

IV 塵芥別処理実績（公益目的事業の実施状況）

1 ごみの種類

主な塵芥の種類は、流木（小）、木片、竹、葦、パレット、発泡スチロール、プラスチック容器、ビニール製品、ガラス瓶、ペットボトル、缶、紙屑、および家庭廃品類等がある。

【表：清掃区域別処理実績（年度別）】

	内 港		南 部		西 部		堀 川		新 堀 川		中 川 運 河		計		備 考
	回数	塵芥 (m3)	回数	塵芥 (m3)	回数	塵芥 (m3)	回数	塵芥 (m3)	回数	塵芥 (m3)	回数	塵芥 (m3)	回数	塵芥 (m3)	
平成 20	269	1,348.0	133	529.5	5	12.0	118	120.0	12	6.5	17	41.0	554	2,057.0	死魚 8,020匹
〃 21	256	1,571.2	123	580.5	21	42.0	129	133.5	21	12.5	23	52.0	573	2,391.7	死魚 265,800匹
〃 22	295	1,285.5	144	443.5	39	77.5	174	196.0	18	12.5	23	62.5	693	2,077.5	死魚 679,350匹
〃 23	268	1,513.5	140	694.5	30	67.5	166	153.5	22	13.5	22	51.0	648	2,493.5	死魚 896,900匹
〃 24	277	1,171.5	160	436.5	15	19.0	166	197.5	23	13.0	24	70.5	665	1,908.0	死魚 56,340匹
〃 25	265	1,564.0	95	349.5	19	15.5	159	186.0	17	9.0	24	58.0	579	2,182.0	死魚 254,600匹
〃 26	230	992.5	75	456.0	12	32.5	168	179.5	17	8.5	29	50.5	531	1,719.5	死魚 61,200匹
〃 27	185	572.5	61	225.5	16	21.0	157	137.5	24	13.6	29	45.0	472	1,015.1	死魚 824,480匹
〃 28	212	1,824.0	67	358.5	15	22.5	143	114.5	19	10.0	20	38.5	476	2,368.0	死魚 992,000匹
〃 29	224	2,353.0	91	365.5	17	17.0	104	98.0	15	8.0	44	83.0	495	2,924.5	死魚 1,384,766匹
〃 30	216	1,008.0	92	310.5	33	34.5	147	114.0	13	7.5	49	85.0	550	1,559.5	死魚 180,000匹
令和 元	212	1,127.0	106	310.0	36	31.5	128	95.0	20	10.0	42	72.0	544	1,645.5	死魚 20,700匹
〃 2	215	1,512.0	119	264.5	37	20.0	160	138.0	20	10.5	48	65.5	599	2,010.5	死魚 198,760匹
〃 3	209	1,659.0	117	288.5	56	51.5	135	118.0	21	10.5	41	53.0	579	2,180.5	死魚 25,000匹
〃 4	218	774.0	139	291.5	50	26.5	163	163.0	22	11.5	50	64.0	642	1,330.5	死魚 123,550匹
〃 5	227	943.0	132	325.5	27	62.5	145	78.5	23	12.0	47	51.0	601	1,472.5	死魚 6,800匹
〃 6	239	1,368.0	108	238.5	13	20.5	144	87.0	24	12.0	49	58.5	577	1,784.5	死魚 5,557匹
〃 7	230	1,038.0	113	181.0	26	29.5	144	85.0	24	12.0	49	63.0	586	1,408.5	死魚 23,900匹

【表：エリア別掃除区分】

清掃区域	使用船舶	基地	搬出処理作業	搬出先
港 内	清港丸	作倉作業基地	可燃ごみは、基地(作業所)に据え付けたクレーンと名古屋市から配車されるトラック、および本会が借り上げたトラックを使用して処理を行う。 可燃ごみ以外の産業廃棄物については、収集運搬・処分を産業廃棄物処理業者に委託する。	名古屋市五条川工場 および 産業廃棄物処理業者が 所有する工場
	あゆち			
堀 川	きよかわ (塵芥運搬船)			
新堀川				
中川運河	きよかわ (塵芥運搬船)	作倉作業基地 中川作業所		



▲ 海の清掃船「清港丸」



▲ 川の清掃船「きよかわ」

2 浮遊死魚処理

浮遊死魚を発見後、清掃船を急行させ、迅速に処理作業を行った。処理実績は次のとおりである。

【表：死魚回収実績】

	作業船舶	人員	処理量	種類	作業時間	場 所	
7年 6月24日	きよかわ	3人	1,000匹	イワシ	12:20~13:10	中川運河	中川閘室
6月25日	清港丸	2人	500匹	イワシ	8:30~ 9:00	中川運河	中川閘室
6月26日	きよかわ	3人	300匹	ボラ	12:00~14:50	堀川	堀川水門 ~ 松重橋
6月27日	きよかわ	3人	100匹	ボラ	7:30~ 9:30	堀川	きらく橋 ~ 松重橋
7月11日	きよかわ	3人	800匹	コノシロ	9:30~10:00	中川運河	中川閘室
7月18日	きよかわ	2人	2,000匹	コノシロ	9:00~10:00	中川運河	中川閘室
〃	きよかわ	2人	8,000匹	コノシロ	13:45~14:45	中川運河	中川閘室
7月19日	きよかわ	3人	8,000匹	コノシロ	11:00~12:15	中川運河	中川閘室 ~ いろは橋
7月31日	きよかわ	2人	200匹	ボラ	12:00~14:30	堀川	旗屋橋 ~ 岩井橋
〃	きよかわ	4人	3,000匹	ボラ	14:30~15:45	新堀川	内田橋 ~ 新堀田橋
合計		27人	23,900匹				

V 啓発宣伝活動（公益目的事業の実施状況）

1 みなと体験ツアー

9月4日（木）、名古屋港管理組合主催の「みなと体験ツアー」が開催され、参加者は港務艇「ぼーとおぶなごや2」に乗船し、名古屋港の役割を学びながら港内を見学した。

この日は「環境・景観コース」として実施され、港の環境保全活動に焦点を当てられた。港の環境を守る船として「清港丸」が取り上げられ、港の美化や海洋ごみ回収に尽力する様子が紹介され、船内には「清港丸」が回収したプラスチック製品などの実物が展示された。参加者は海洋ごみを見て深刻な現状に驚きの声を上げていた。ツアーを通じて、名古屋港の重要性だけでなく、環境問題への理解を深める機会となった。

2 河川大清掃

10月21日（火）から29日（水）、名古屋港管理組合、名古屋市と堀川、新堀川、中川運河沿線の木材業者の協力で、名古屋水上交通組合と共催による河川大清掃を実施した。

初日は名古屋木材会館で出発式を行い、期間中は船に「港や川をきれいにしましょう」の横断幕を掲げ、堀川、新堀川、中川運河で汚染防止を呼びかけた。

3 出前講座

12月10日（水）、名古屋市守山区の大森小学校4年生を対象に、出前講座「海のおそうじやさん」を実施した。清港会が水上での清掃活動を始めた背景や、清掃船の仕組みを紹介。さらに「なぜごみが名古屋港に流れてくるのか？」という疑問に答える形で、河川の動きが海へとつながるメカニズムを説明。

海洋ごみの種類やそれらが海の生き物や、景観に与える影響について具体的な事例を交えて解説し、街に散乱したごみの写真を見た子どもたちは目を丸くし、「信じられない！」と驚きの声を上げていた。最後には、ごみの量や種類に関する質問が相次ぎ、子どもたちの関心の高さと、真剣に向き合おうとする姿勢が見て取れた。



▲ ごみが海に流れてくるメカニズムを説明



▲ ごみに関するクイズを出題

4 小学生作業見学会

6月13日（金）、名古屋市立東築地小学校の3年生45名が清港会の作業現場に訪れ、「海のそうじ屋さん」の活動を見学した。これは名古屋市が毎年実施する「環境学習ウィーク・トライ&アクション」の一環で、市内の全小中および特別支援学校を対象に環境意識を高めることを目的としている。児童たちは清掃船から回収してきたごみを船から陸に揚げる様子を間近で見学し（写真右）、海洋ごみが船の航行や海洋生物へ及ぼす影響について説明を受けた（写真左）。この見学会は平成19年度に始まり今年で17回目の開催となる（令和2年・3年はコロナ禍で中止）。清港会の実演と解説を通じて、児童たちは日常では気づきにくい海洋ごみ問題と環境保全の大切さを実感した。



▲ パネルを活用した講義



▲ 清掃船で回収したごみを陸に揚げる作業を見学

5 エコパルなごやのマンスリー企画展示

前年度に引き続き、8月1日から30日の約1ヶ月間、名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」で海洋ごみを主題としたマンスリー企画展示を行った。「マンスリー企画展示」は、身近な環境から地球規模の課題までを楽しく学べる情報発信の場で、同センターで毎月さまざまなテーマが紹介されるもの。今回の展示では、名古屋港に流れ着くごみの発生源や、それが海の生態系や暮らしに及ぼす影響をイラストや写真、動画で解説した。加えて、清港会が回収した海洋プラスチックの実物展示や、清掃船による海や河川の清掃活動も紹介した。本展示は、海洋ごみ問題の深刻さやその原因、影響、そして清港会の取り組みへの来場者の理解を深める内容となった。



▲ 展示室の一角にマンスリー企画展示コーナーがある



▲ マイクロプラスチック化したごみ等の展示

6 環境デーなごや2025

9月13日（土）、名古屋市中区の久屋大通公園で開かれた「環境デーなごや2025」に9回目の出展を行った。テーマは「名古屋港と川をゴミから守ろう」。ブースでは、海洋ゴミが生態系や景観に及ぼす影響を、動画やパネルを用いて分かりやすく紹介したほか、来場者が参加できる環境クイズも実施した。正解者には清港会デザインのエコバッグを記念品として配布した。このエコバッグは、環境への意識を生活の中で取り入れてもらえればという思いで作成したもの。当日は300名を超える来場者がブースを訪れ、清港会の活動や環境保全への取り組みに理解を深める姿が見られた。



▲ にぎわうブース



▲ 清港会がデザインしたエコバッグ

7 啓発配布物

清港会の「あらまし」およびリーフレット「海のおそうじやさん」を、各関係機関および一般市民に配布し、環境啓発に努めた。

8 啓発看板

各清掃船に「港や川をきれいにしましょう」というプレートに常時取り付け、港湾利用者らに対して港湾美化を呼びかけた。

9 啓発横断幕

6月の海洋環境保全推進月間中、南極観測船「ふじ」や船だまりに「港や川をきれいにしましょう」の横断幕を掲げ、啓発活動を行った。また、10月12日（日）に開催された名古屋レガッタに合わせ、中川運河沿いに横断幕を掲げ、港内美化を呼びかけた。

10 名古屋港水族館「エコ・アクアリウム」展示

名古屋港水族館の南館3階には、海の環境問題を主題にした常設展示「エコ・アクアリウム」がある。日本初の水族館内環境教育ルームで、パネルや大型モニタ、顕微鏡を使い、海洋プラスチックゴミが生物や海洋環境に与える影響をわかりやすく解説している。この展示の一角で昨年度に引き続き清港会の活動が紹介されている。清掃船「清港丸」で回収した海洋プラスチックの実物展示、清掃の様子を収めた動画やパネル、マイクロプラスチックのサンプルと解説資料を並べ、海洋汚染の深刻さと対策の重要性を訴えている。

第2 大型漂流物除去等

I 作業内容（公益目的事業の実施状況）

令和7年度の大型漂流物除去を、昨年度に引き続き、名古屋港管理組合からの委託を受けて実施した。作業船「そうかい」（写真左）により、名古屋港港湾区域内（ただし河川区域を除く）を、悪天候を除きほぼ毎日巡回し、航行する船舶の障害となる大型漂流物の収集作業を実施した。緊急時には、携帯電話を用いて連携を取り、迅速に対応した。

収集した大型漂流物のうち、流木については新宝ふ頭に設置されている「アバ」（写真右）に集積した。集積した流木は、7月1日、10月17日および3月18日に陸揚げ作業を実施。その後、十分に乾燥させたうえで、チップ化による処分を行った。

流木以外の大型漂流物については、作倉基地に集積し、適宜、産業廃棄物処理業者に委託して収集運搬および処分を実施した。

家電については、家電リサイクル法に基づき適切に処理を行った。

また、沈廃船を産業廃棄物として、1隻処理した。



▲ 作業船「そうかい」



▲ 新宝ふ頭「アバ」 流木集積

II 大型漂流物の種類（公益目的事業の実施状況）

主な大型漂流物の種類は、丸太、角材、板、沈廃船（ボート）、ドラム缶、プロパンボンベ、ビニールシート、タイヤ、冷蔵庫、洗濯機、ベッドマット、ふとん、タンス類、自転車、バイク等である。



▲ タイヤやドラム缶、冷蔵庫などの家電製品



▲ 沈廃船1隻

【表：収集および陸揚げ実績表】

		丸		太角		材		板		船材	木工品	工業品	その他	陸揚げ処理量(t)
		2m未満	2m以上	2m未満	2m以上	2m未満	2m以上	沈船および廃船等	パレット、パゴ、木片および箱等	タケ、ドラム、プロパンボンブ等	竹材、ロープ、ビニールシート、菰等			
R7年	4	24	18	14	7	15	4	0	88	5	39			
	5	19	8	3	8	7	3	1	51	9	32			
	6	63	68	7	6	3	4	0	272	6	66			
	7	60	40	3	5	4	5	0	131	3	44	5.64		
	8	57	37	7	8	6	2	0	80	1	22			
	9	50	59	10	1	4	3	0	92	6	38			
	10	68	42	13	2	11	8	0	87	7	30			
	11	20	13	12	3	4	3	0	51	4	13	3.31		
	12	20	9	15	5	9	5	0	37	3	35			
R8年	1	6	4	6	0	4	0	0	11	0	13			
	2	20	5	12	1	7	4	0	32	3	38			
	3	9	7	8	2	2	2	0	25	3	25	12.44		
計		416本	310本	110本	48本	76枚	43枚	1隻	957個	51個	395個	21.39t		

※ 陸揚げ処理量(t)は、新宝ふ頭に設置してある「アバ」内の大型漂流物（流木）を陸揚げし、乾燥後に搬出処分（チップ化）した処理量である。

Ⅲ 施設および人員

1 使用船舶

船名	総トン数	主機関	速力	乗組員数	備考
そうかい	7.9ト	ディーゼル320PS×1基	15.7ノット	3名	名古屋港管理組合から無償借受け

2 土地

用途	所在地	土地面積	備考
港内における大型漂流物陸揚げ処理のため	東海市新宝町 25-1	1,390.76㎡	名古屋港管理組合から無償借受け

3 人員

職名	事務員	船長	予備船長	計	備考
人数	2名(※)	1名	1名	4名	(※) 清掃事業と兼務

Ⅳ 新宝ふ頭「アバ」大型漂流物（流木）陸揚げ処理および沈廃船処理実績表

地区別	流木陸揚げ処理		沈廃船処理
	陸揚げ	処理	
件数	2回	3回	1隻